

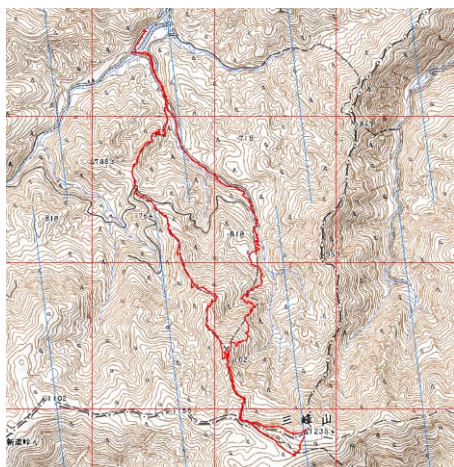
山行報告書

京都田辺山友会

報告者 佐坂 茂美

山名	三峰山	山行名	例会
ルート	みつえ青少年旅行村―(登尾ルート)―山小屋―三峰山―山小屋―(不動滝ルート)―不動滝―青少年旅行村		
山行日	2014年2月5日	天候	曇り・晴れ
参加者	リーダー：佐坂 サブリーダー：園上 男性：秋月、植西、北村、中廣、樋口、守口、山口、山下 女性：大林、上田 (一般) 合計：12名		

ルート概略図



コースタイム

地名		時：分	地名		時：分
青少年旅行村	集		避難小屋	着	13:30
	発	10:00		発	13:35
分岐点 登尾コース	着	10:15	不動の滝	着	14:30
	発			発	
避難小屋	着	11:40	青少年旅行村	着	14:50
	発	12:10		発	15:00
三峰山	着	12:40		着	
	発	12:45		発	
八丁平	着	12:55		着	
	発	13:00		発	

山行報告

山行日の2～3日前から天気予報をチェックすると余り思わしくない予報が出ており予想気温も氷点下8度前後。併せて今はやりの流感にかかったらしき参加申込者もあり等々で不安要素もあったが予定通り決行を決めました。

参加者の中に入会希望者も1名ありましたがスパッツを見ると積雪期用のスパッツを装着されており大安心でした。

当初は不動滝ルートのピストンを予定しておりましたが、この山をよくご存知の樋口さんの提案で「登尾コース」を登り「不動滝コース」を下山することに変更しました。前日までの春を思わせる高温度と当日の低気温の為ルートはしっかりとしており、アイゼンを装着し「ザクザク」の踏み音を聞きながらしっかり踏みしめ歩を進めることができました。唯「雪」の気配がなくこの山の主目的である「霧氷」の有無を心配しましたが尾根筋に出ると霧氷の満開で「来てよかった」との思いを抱きました。又、山行曜日が水曜日でもあり、貸切状態とは言えませんが登山者も少なく霧氷の花咲く景観を堪能出来ました。八丁平小休止の後不動滝コースを辿りましたがあの不動滝は氷結しておらず単に水の流れ落ちる「滝」でした。

天候の加減で歩きやすくなったルート、尾根筋での霧氷の歓迎、そして参加頂いた皆様に感謝々々です。

ヒヤリハット ありません

三峰山感想文

樋口 修

三峰山は、霧氷の美しさに定評がある山だ。これまで霧氷シーズンに4回登ったが、いずれも壮大な霧氷に感激したものだ。今回も霧氷を期待して申し込んだ。

ところが、2月に入ると春を思わせる暖かい日が続いた。山行前日にインターネットで御杖村のホームページをみると、「三峰山は頂上付近の一部を除き雪は融け、登山道も雪が融けてしまっている」と記載されており、美しい霧氷が見られるか少し心配になった。しかし、前日の午後から急に冷え込み、霧氷の期待が膨らんだ。

マイクロバスが榛原を過ぎても、車窓から見える山には雪は全く見ることができず、少し心配になった。登山口の「みつえ青少年旅行村」に近づくと三峰山の山頂付近が白くなっているのが見え、安堵した。

登りは、「登り尾登山道」から山頂を目指したが、尾根筋にでもこれまでと違い、登山道には雪がなく、アイゼンは不要の状況が続いた。まるで春山に近い快適な歩きだ。ただ、尾根筋では時々冷たい強い風が吹き、衣服調整に悩まされた。

予定通り、避難小屋で昼食をとり山頂へ向かった。避難小屋から先の登山道は、前日迄の雪融け水が凍っており、少し滑るような状況だったが、頂上までアイゼンは不要だった。

三峰峠に近づくと登山道の両側に霧氷が見られるようになり、早速写真を撮った。

山頂ではこれまでとはスケールは多少劣るものの、それなりに美しい霧氷に囲まれ、霧氷はあまり期待できないと思っていただけに、感激もひとしおだった。山頂から霧氷が特に綺麗な八丁平に降りると、周りの木々に美しい霧氷ができていた。特に風の当たるところと当たらないところでは、かなり異なる霧氷が出来ており、この天気でないと思われられないような、それぞれ特徴ある美しい霧氷の芸術を見ることができた。

下りは、八丁平で、安全のためアイゼンを装着し、不動滝まで下った。不動滝は残念ながら氷瀑は見られなかった。

帰りのバスでは、Oさん際入れの「うまい日本酒とあて」で疲れをとり、満足感にひたりながら、うたたねし岐路についた。

世話役の佐坂さん、園上さん、差し入れして頂いたOさん、ありがとうございました。

